



ボクっ娘足コキピュッピュ



「お前、ボクみたいなの  
オトコ女に興奮する

ヤツはいないとか、ゴリラの  
メスのがマシとかささんざん  
言ってたよな？」

「は、はい……」

「そんなヤツがなんで私の  
部屋でち○ぽ出して下着  
あさってたの？」

「な、なんでだろ……」

「おかしいなあこんなゴリラに」

「この状況でまだ言い逃れ？」

「お前がいつもボクの胸や

お尻ガン見したの気付いて

ないとも思ってたんの？」

「そんなべっちゃパイ見ても

萎えるだけだしっ！」

「ほほう？」

グッ

グッ…



「じゃあ、見せてやるから早く萎えさせてくれよ、このカチカチち○ほ」

「あぁっ！おっぱは……」

「おいおい、ますます硬くなってくるぞ？ドクドク脈打って足が熱いくらいだどうしたんだ？」

「はぁっ……はぁっくそっこんなっ……くっ」

「ふふん……なあ、お前ボクのこと好きなんだろ？正直に言えよ」

「ち、……違っ！」「強情だなあ、正直に言えば特別にヌいでやるよ」

「……………」

ブルッ

ビクッ

グッ

グッ





「ほら、ボクのおま〇こ  
見ながらいっちゃいな!」  
「おおおっ!おま〇こ」  
お前のおま〇こ想像して  
何度オナツたか!本物  
ま〇こ!あつもうっ!出る  
出るっあっああっ...無理っ  
あああっ!」  
「あっはっは!すげえ  
噴水みたいだ、白くて  
粘っこくて全然キレイじゃ  
ないけど」  
「はう...くっ、ふううっ」

ピョッ  
ピョッ  
ドブッ  
ブピョッ  
ピョッ







